

小野悌子

月あかり

ゆれながら

とぎれながら

やわらかなひかりが

わたしのもとへ

あるとき

なくしてしまったもの

さがしても さがしても

みつからないまま

ずっと 求めつづけるだろう

つきのひかりが

ろうろうと

うみに沈んでいくように

気づいたら 静かな海に立っていた